開運成就　粟生聖天

真言宗　智山派

定福寺だより

蓮咲くは
笑い地蔵の
在す寺

能傳子

新四国曼荼羅霊場第六十一番

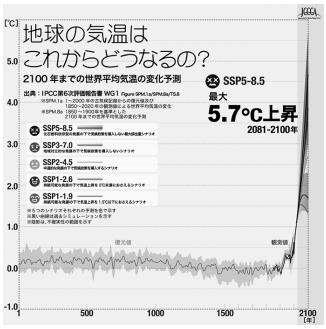
2024年63号　甲辰閏（きのえたつうるう）

ごあいさつ

住職　釣井　龍秀

皆様におかれましては、日々御信心で定福寺にご高配を賜りありがとうございます。感染症は、まだ安心できる状態ではないかもしれませんが、皆様におかれましては日常生活が徐々に取り戻せているのではないでしょうか。体調に留意して行ければと思います。昨年は「らんまん」が放送され牧野富太郎博士や植物に関心がもたれる年になりました。高知県下の博物館や植物園など、ミュージアムネットワークに参加する各館でも、関連した企画など多く開催されました。定福寺境内には「土佐豊永万葉植物園」があります。１９７５年４月に日本で６番目の万葉植物園として、川井地区出身の門田秀峰氏と釣井義光師の発案で開園いたしました。境内には１２３本の万葉歌碑があり、歌碑に詠まれている花が歌碑の周辺に咲いています。長老の釣井龍宏が木札に花の名を書き、寺庭の照子が整備する境内の草花に木札を立てています。境内散策を楽しめるように整備が進んでいます。また仁王門には現在咲いている花が掲示されています。令和５年より製作が始まった万葉植物園パンフレットの「土佐豊永万葉植物園歌碑（仮題）」が完成間近になっています。歌碑の場所や万葉集の解説があり、薬草となるものにはその説明もされています。お求めいただき定福寺の境内で植物の散策を楽しんでいただければと思います。定福寺の境内では、除草剤を使用していないため、多くの貴重な植物や生物が生息しています。キビシロタンポポは、高知県で初めて定福寺で発見されました。境内の紅葉は大変美しく、多くの方に楽しんでいただいています。土佐豊永万葉植物保存会の会員も募集いたしております。興味のある方はどなたでも入会できます。

定福寺の境内の植物は、年々変化をしています。地球温暖化の影響もその一つだと思われます。日本列島が形成されたのが５０００万年前と言われています。その間日本列島の気候は、熱帯気候、亜熱帯気候、氷河期と変化しています。現在の気候は約２６０万年前から始まった第四紀氷河時代の間氷期という区分になるそうです。気候の変動は地形の変化や火山噴火、日射量の変化、モンスーンの影響など様々な要因があります。１万年を超える長期の気候変動には、大気中の二酸化炭素の増減が大きくかかわっているそうです。１万年の間に二酸化炭素は緩やかに増減をしていました。しかし西暦１８５０年以降２０００年までの１５０年間で５０００万年の間に変化した二酸化炭素の量をはるかに超える量の変化が起こっています。気温の変化も１９００年の間に０・３度以下の温度上昇だったものが、この１９００年から２０００年間の１００年間で１度以上上昇しています。



実は万葉植物園の石碑周辺に咲かなくなった花もあります。これは自然の摂理であり仕方ないことですとは言えないのかもしれません。私が定福寺に来て30年近くになります。義光師の妻で「ばばちゃん」と呼ばれていた今子さんに、私が言われたことが今の気候と昔を比較する物差しになっています。11月のお聖天さまの浴油祈祷のお供え物に「お団（歓喜団）」があります。「お団」を作るために、使用するもろ蓋や蒸籠（せいろう）などを毎年11月初めに洗います。当時11月は大変寒く、水仕事をしていると手が痛くなり、その作業を見ていたばばちゃんが「お湯足してせんと寒すぎるよ」って町育ちの私に言ってくれました。11月はとても寒かったのです。もちろんその作業は毎年行なっています。最近では、半袖で作務衣のズボンを捲り上げてすることもあります。この30年で気候が変化したことを作業から実感しています。

万葉植物の花がそこにないことや、身近な豊永郷での日常生活の変化から温暖化や気候変動を考えるきっかけになればと思います。

さて、11月の行事であるお聖天さまは、インドの神さまです。聖天さまについては、別に記します。真言宗や天台宗は、神々を様々な形で祀ります。江戸時代までは多様な祈りがありました。定福寺本堂横の熊野神社も熊野権現として僧侶が祀っています。またその横には地主神も祀られています。本堂の石垣を見てもわかるように、定福寺の鎮守さまです。水神さまと共に毎朝、長老とお祈りをしています。現在、定福寺宝物殿では、令和６年５月末まで「定福寺の神々」という企画展を行なっています。定福寺には神像が十数体安置されています。これらの神像は各地区のお宮から、明治の廃仏毀釈の際に定福寺に移されたものです。豊永郷には各地区にお堂とお宮があります。古い記録を見ると、お宮は現在のお宮とは少し

違った印象を受けます。定福寺に残る資料に棟札があります。棟札は、寺社や民家など建物の建築、修繕など建物に関わる作業の時に作られます。棟木・梁など建物の高所に取り付けられていることが多いですが、現在では、多くの棟札が目に見える場所に置かれています。棟札には災いを除けるための祈りの言葉が記されています。また詳しく書かれた物には、大工さんや世話人、肝煎りや宗教者の名前が記されており、貴重な資料にもなっています。

（表）「バン（梵字） 上葺八幡宮一宇 國主従四位下侍藤原朝臣豊昌公住持法印宥意」

（裏）「寛文十二年三月十五日 大工 弥五右衛門重次 小工 四兵衛 良秋 鍛冶屋 澁谷次長●文吉 葺師願 南文助 神主 三市忠神願 千月」（寛文十二年は１６７１年）。

表より土佐藩主山内豊昌公が檀那となり、定福寺住職宥意がお祈りをしたことがわかります。裏には大工、小工、鍛冶屋などの名前があり、神主の名前があります。神願はわかりません。また別の棟札には

（表）「バン（梵字） 奉葺五社大明神一宇 大檀那土州大守 豊敷公導師五臺山法印 覚龍 別當定福寺 祐鏡」

（裏）「享保十二年十月吉祥日 大夫 平石和泉」（享保十二年は１７２７年）。

この棟札からは、土佐藩主豊敷公が大檀那、竹林寺住職が導師となり、定福寺住職と共に祈祷したことがわかります。棟札の裏には大夫の平石和泉の名が記されています。別當（当）というのは、本職は別にあるが、兼ねて管理するということです。五社明神は定福寺がお祈りをしていました。奈良時代以降、社僧や供僧（ぐそう）などがいました。真言宗や天台宗などの祈りの中には、元々神々への信仰が含まれており、お互いが共存するような関係で信仰されてきました。弘法大師がご請来された胎蔵曼荼羅の外側には、多くの神々が描かれています。

平尾道雄の『近世社会史考』に「たとえば、権現、明神または牛頭天王のごとき仏語をもって神号とした神社はその由来を申告せねばならない。仏像を神体として祀ることは許さない。たとえば金毘羅権現は琴平の神社または讃岐神社とも改むべきで、八大竜王竜神は海津見神社に、三宝荒神は竈戸神社に、弁財天は厳島神社とする。すべての権現とあるのは神社、権現宮とあるのは王子宮と改めよというものである」[平尾 1962:115]とあるように、当然豊永郷のお宮でも同様の事がおきました。八川地区の竈戸神社は明治までは三宝荒神であった記録があります。また桃原地区の熊野十二所社（神社）も熊野十二所権現でした。八畝地区の五社王子宮も五社明神でした。これらは神仏習合の神として祀られています。定福寺では節分の本尊として迎える妙見菩薩は、北極星を司る神であり、節分は星供護摩祈祷を行い、その年に当たっているそれぞれの星を供養しています。妙見神社は星神社と名前が変化しています。

このように多くの事が明治時代に急激に変化し、それらが引き継がれ現在では日常となっています。信仰だけではなく、文化は変化しながら現在にまで引き継がれてきました。

定福寺があるのは、皆様の信仰のお陰様です。お寺は「祈る場であり、学ぶ場であり、集う場である」と感じながら日々を精進させていただいております。これからも定福寺の様々な活動を温かい目で、見守っていただけると幸いです。

皆様の多大なるご助力のお陰様で、令和5年10月から講堂の工事が始まり、搬入搬出路の整備、解体工事が行われました。ここで一度工事を中断します。完成予定は令和6年度中となります。これからもご助力を、よろしくお願いいたします。

4代 豊昌（とよまさ）

生没年：寛永18（1641）年～元禄13（1700）年
享年60歳
父：忠豊（3代） 母：母長光院（忠豊正室）
通称：国松
官位：従五位下筑後守 → 従四位下土佐守・侍従
家督：寛文9（1669）年
29歳（忠豊の隠居により家督相続）
正室：仙寿院（松平（久松）定頼女－松山藩）・宝雲院（後妻・三条公冨女－公家）
法号：覆載院殿含弘周徳大居士

天和元（1681）年、新しく召し抱える家臣へは土地を与える「地方知行」から、米を与える蔵米知行にし、年貢制度にも改革を加えるなど、安定した財政の実現を目指した。これらの改革を「天和改革（てんなかいかく）」という。

元禄3（1690）年には、寛文改替以降の法令をまとめた「元禄大定目（げんろくおおじょうもく）」を制定し、これは長らく土佐藩の法令の指針となった。しかし、同11年には城下の大半が焼失するなど、財政を圧迫する事件も多発した。

8代 豊敷（とよのぶ）

生没年：正徳2（1712）年～明和4（1767）年
享年56歳
父：深尾規重（家老）
母：清涼院（規重正妻・西大路氏女－公家－）
通称：政之助・市正・伊右衛門
官位：従四位下民部大輔・侍従 後に土佐守
家督：享保10（1725）年 10歳（豊常の死去により家督相続）
正室：端光院（6代豊隆女）
法号：大昌院殿天徳承真大居士

家老家の一つである深尾東家深尾規重の長男。享保10（1725）年に7代豊常が跡継ぎのないまま亡くなったため、6代豊隆の娘（7代豊常の妹）と結婚して藩主となった。享保12（1727）年の高知城下の大火による高知城・城下の再建工事、そのうえ飢饉が続き、厳しい財政状況が続いた。その対策として藩政は商業資本との関係を深めていったが、宝暦5（1755）年に紙専売制に反対する津野山一揆が起こった。土佐南学を藩学の柱に位置づけ、宝暦9（1759）年には藩校「教授館（こうじゅかん）」を設置するなど、学問や文化に理解を示した。

粟生山　歓喜院　定福寺　歓喜天浴油祈祷

皆様は、お聖天さまをご存知でしょうか?お聖天さまをお祀りしよく知られている寺院は、商売繁盛で有名な奈良県の生駒聖天さんです。

定福寺に残るお聖天さまに関する古い経典は江戸中期のものです。現在の聖天さまは、竹林寺の僧、野本進甲師が定福寺の住職として晋山する際、師匠より持念仏として渡された天尊ということです。

歓喜天、聖天尊

聖天尊は歓喜天とも呼ばれています。定福寺の院号は、「歓喜院」ですので、昔からご縁があったものと思われます。歓喜天は、力の強い天尊として名高く、祈祷を行う行者もそれなりの覚悟をもって行う必要があるとされています。歓喜天は秘仏で、そのお姿は行者のみが拝することができます。祀り方や祈祷方法は様々ありますが、最も重要で深奥な歓喜天への祈りは浴油祈祷とされています。定福寺ではこの浴油祈祷が当初より続いています。

歓喜天はもともと、インドでは農耕神だったと言われています。障礙や困難を除去するという名前を持ちます。障礙や困難を取除き、願いを成就させるということで、**商売繁盛**や**家内安全**、**当病平癒**、**開運福寿**、**学業成就**などの願文が多く届けられています。粟生聖天の氏子(子供)や信徒(熱心な信者)となり、毎年お札を受けられる方もいらっしゃいます。

現在、浴油祈祷を厳修し、お供物の歓喜団(お団)を作っている寺院は、高知県下では定福寺だけだと思われます。全国でも珍しいそうです。

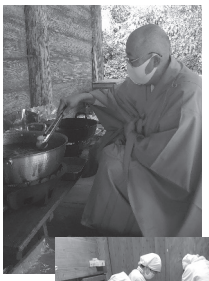
歓喜天への供物　蘿蔔(らふ)根(大根)と歓喜団(お団)

聖天尊の供物の特徴は、羅蔔根(大根)と巾着の菓子の歓喜団(お団)と歓喜酒です。これらを祀れば一切の善事は意のままに実現し、一切の災いはことごとく消滅するとあります。

『使呪法経』に「左手に蘿蔔を取り右手に歓喜団を持つ」とあり、古くから蘿蔔根と歓喜団は歓喜天への供物には欠かせないものです。

蘿蔔根(大根)は、インドの説話によると解毒の作用があるとされています。蘿蔔根は歓喜天の日常食であり、薬効があるそうです。現在の歓喜団のレシピで古いものは、生駒聖天に残る１７５４年のものだそうです。

定福寺の歓喜団(お団)の作り方は、野本進甲師以来受け継がれ、細かな指示がなされております。歓喜団は開白前(11月10日の少し前)に信徒の皆様の力を得て手作りされます。行者は衣を着け、祈りながらごま油で揚げる作業を行います。



定福寺の行者

定福寺では聖天浴油祈祷中、１日２座と法施の計３座を厳修いたします。期間中は、行者は三密庵という別棟に住み、家族とも離れ俗世間との接触を一切断ちます。またこの期間は本堂が完全に閉じられ、結願の座が終わるまで扉は開かれません。

弘法大師(空海)の書簡の中に「禅関に閉じて」、「禅関未だ通じず」という文言があります。これは、唐招提寺の唐僧都大徳(如宝と言われた僧侶)の依頼や中国からの使者との面会の依頼、また為政者

の葬儀などの依頼に対して書かれた言葉です。日常ならお受けされたと思います。究極的世界を、門外不出の秘密瑜伽の実践を通じて弘法大師（空海）は見続けられていたと考えられています。どのようなことがあろうと、一定期間は俗世間の妄年を離れて、心を一個所に集中し動乱しないという、三昧（さんまい）に住していた時期があったことがわかります。

定福寺では、聖天尊の浴油祈祷中行者は、どなたにも会わず、三密庵をむやみに出ることはありません。ただ、弘法大師さまも書簡のやり取りがあるように、住職は全く外の世界とつながりを持たないことはなく、通信手段を使い対応などは行なっています。

浴油祈祷を修法する前には必ず沐浴をし、料理は完全な精進料理となります。精進料理も三密庵で僧侶が作ります。行者は清浄な姿で籠ることにより力を蓄え、修法に臨み、その力をすべて、皆様の願いに注ぎます。寺族も完全な精進料理となりその後押しをしています。

真言密教の加持祈祷

加持とは、祈願をする人に、仏さまが大慈悲の力を加わえようとし、また願う人は、その仏さまの力をいただけるように、真剣に願うことで（信心）、仏さまの力を受けて持つ準備ができることです。仏さまと祈願者の相互作用を加持といいます。

真言宗では加持祈祷は、三つの力が合わさった時に、あまねく供養（願い）が成就するといわれています。

1つ目が仏の加持力（浴油祈祷では歓喜天の力と祈願者の力）、2つ目が行者の功徳力、3つ目が法界力です。

功徳力は、功能福徳という意味です。善行（善い行い）の結果として得られる力のことです。行者が功徳力を得るためには、清浄に籠り、修法に向かう準備をし、真剣に集中して修法に取り組むということが必要です。

法界力とは、仏の大慈悲の力と祈願者の信じる力が出会う場の力です。真言宗では、お祈りをする場所の荘厳の様子や空間、空間の香りなどを大切にいたします。それらは祈る場の力を得るためでもあります。定福寺の本堂もその場所の一つです。真言宗でも最上級の加持祈祷が聖天尊の浴油祈祷とされています。

聖天浴油祈祷の期間と申し込み方法

（1）歓喜天浴油祈祷の期間

浴油祈祷は、11月に行われます。お申込みいただいた日から11月8日まで毎日御祈願を申し上げさせていただきます。

（例）11月7日にお申込みいただいた方→11月8日～翌年の11月7日まで毎朝御祈念いたします。

（例）1月10日にお申込みいただいた方→1月11日～11月7日まで毎朝御祈念いたします。

（2）お申し込み方法

ホームページからお申込みいただくか、申し込み用紙にご記入の上、お寺にご持参いただくか、ＦＡＸ、郵送にてお申し込みください。

①「ご祈禱者」の欄には、お願いをされる人をご記入ください。

②「願主」の欄には、お願いをする人をご記入ください。

③「御祈禱の定」の欄は○をつけてください。

（例）母親が娘の合格祈願をする場合

①ご祈禱者　娘の名前

②願主　母親の名前

＊郵送を希望の方は、送料１，０００円をお願いいたします。

＊ご入金が確認でき次第、ご祈祷がはじまります。

（3）永代浴油

永代浴油は、その方が永代受けられるご祈祷です。こちらもお申込できます。

御両親や両祖父母がお子様やお孫様のためにお申込みいただいた際は、住所がわかる限り、木札と紙札をお届けいたします。また、ご住所が不明になられた場合でも浴油祈祷は、定福寺で続けさせていただきます。ご安心ください。

お申し込みの方は、石碑が建立されます。

永代上品浴油
１５０万円
永代中品浴油
１００万円
永代浴油
５０万円

（4）御札について

御札をお家でお祀りする場所がない方は、定福寺に翌年の浴油祈祷までお預かりし、お祀りすることもできます。

〈連絡先〉
〒７８９０１６７
高知県長岡郡大豊町粟生１５８
ＴＥＬ０８８７-７４-０３０１
ＦＡＸ０８８７-７４-０３０２

〈お申し込み方法〉
裏面の『粟生聖天尊浴油祈祷　お願い用紙』を切り取り、郵送またはＦＡＸでお届け頂くか、ホームページまたは左記Ｅメールよりお申込みください。
■ホームページ
jofukuji-kochi.jp/jofukuji_16.html
■Ｅメール
tosa-jofukuji@gmail.com

〈お振込み方法〉
ご祈祷料は郵送もしくはご持参いただくか、左記へお振り込みをお願いいたします。

《振込先》

・四国銀行　大田口代理店　普通　9606052
　名義　宗教法人定福寺 代表役員 釣井龍秀

・高知銀行　豊永支店　普通　0140238
　名義　宗教法人定福寺 代表役員 釣井龍秀

・ゆうちょ振込口座
　記号　01620-7　　番号　12426
　加入者名　宗教法人　粟生山　定福寺

聖天尊衣帯と念珠御寄進の御礼

この度、聖天尊浴油祈祷を行う際に着けさせていただく、衣帯と念珠が完成し２０２３年度の聖天尊浴油祈祷で着けさせていただきました。御寄進をいただいた方々には心より感謝申し上げます。桐箱にお名前を記させていただき、今後定福寺の寺宝として扱わせていただきます。この衣帯と念珠は聖天尊の浴油祈祷にだけ着けさせていただく、大変清浄なものです。

真言宗では、息災法に白袈裟、白衣を用います。また衣の素材は麻や木綿などを用います。白色は清浄寂静を顕すとされています。日常、僧侶が着ける衣を直綴（じきとつ）と言います。直綴の元の形は褊衫（へんざん）と裙（くん）といい、褊衫は腰から上の衣で、裙は腰から下の襞（ひだ）のあるものです。これに如法衣を着けます。袈裟には様々に種類がありますが、如法衣は「仏の説いた教え（法）に沿った衣」、「正しい道理にかなった衣」という意味があります。法衣袈裟が広まっていく中で、中国では次第に荘厳さが増します。その中で戒律を遵守し、美しさよりも釈迦の教えに基づいた質素さを正しく守っていきたいという考え方が優先された袈裟だと言われています。

白袈裟　褊衫・裙・如法衣

本琥珀念珠

真言宗では、念珠やお香も修法によって違いがあります。聖天尊には琥珀の念珠が使用されます。今回の念珠は本琥珀の念珠であり、浴油祈祷以外には使用されません。

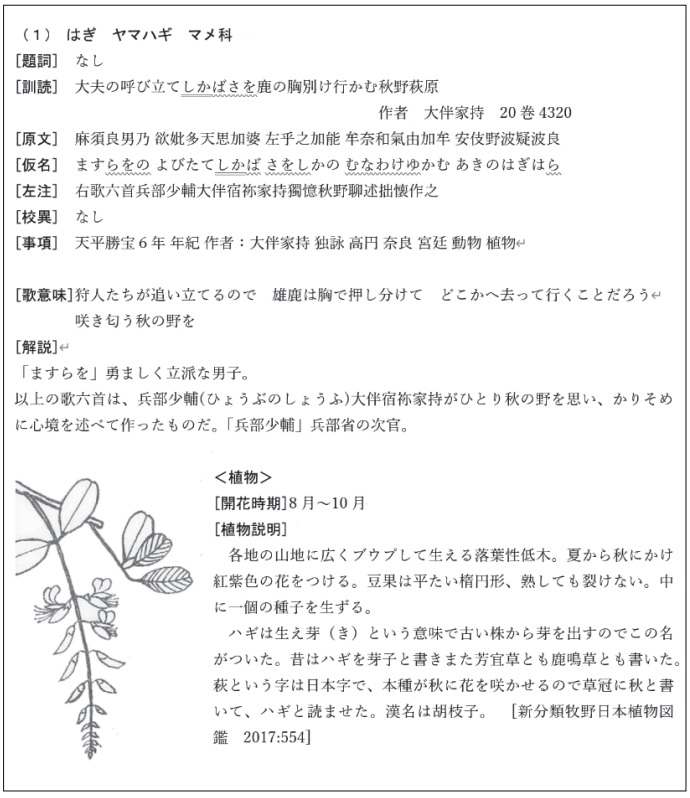
重ねて、今回御寄進いただいた方々には心より感謝を申し上げます。

土佐豊永万葉植物園

門田秀峰氏と釣井義光師の発案で１９７５年４月20日に全国で６番目の万葉植物園が、定福寺の敷地内に開園いたしました。

「らんまん」が放送されることで、多くの方が植物に興味を持たれました。定福寺の境内には１２３本の万葉集の歌碑があり、その周辺に歌碑に詠われている花が咲いています。また貴重な植物も群生いたしております。

今回、嶺北観光協議会からの助成を受け、万葉植物園の様々な整備を行い始めました。一つは植物に標識を立て、QRコードを示します。各自の携帯で植物の説明、万葉集の説明、また薬草であればどのような効能があるのかが示されるようになります。また仏教の経典に登場する花も示されています。二つ目は、境内のどの場所にあるのか散策できるようにパンフレットを製作いたしております。２０２４年３月頃には販売ができると思います。境内の植物をお楽しみいただければと思います。



（１） はぎ　ヤマハギ　マメ科
［題詞］ なし
［訓読］ 大夫の呼び立てしかばさを鹿の胸別け行かむ秋野萩原
作者　大伴家持　20巻4320
［原文］ 麻須良男乃 欲妣多天思加婆 左乎之加能 牟奈和氣由加牟 安伎野波疑波良
［仮名］ ますらをの よびたてしかば さをしかの むなわけゆかむ あきのはぎはら
［左注］ 右歌六首兵部少輔大伴宿祢家持獨憶秋野聊述拙懐作之
［校異］ なし
［事項］ 天平勝宝６年 年紀 作者：大伴家持 独詠 高円 奈良 宮廷 動物 植物

［歌意味］狩人たちが追い立てるので　雄鹿は胸で押し分けて　どこかへ去って行くことだろう
咲き匂う秋の野を
［解説］
「ますらを」勇ましく立派な男子。
以上の歌六首は、兵部少輔(ひょうぶのしょうふ)大伴宿祢家持がひとり秋の野を思い、かりそめに心境を述べて作ったものだ。「兵部少輔」兵部省の次官。

＜植物＞
［開花時期］8月～10月
［植物説明］
各地の山地に広くブウブして生える落葉性低木。夏から秋にかけ紅紫色の花をつける。豆果は平たい楕円形、熟しても裂けない。中に一個の種子を生ずる。
ハギは生え芽（き）という意味で古い株から芽を出すのでこの名がついた。昔はハギを芽子と書きまた芳宜草とも鹿鳴草とも書いた。萩という字は日本字で、本種が秋に花を咲かせるので草冠に秋と書いて、ハギと読ませた。漢名は胡枝子。　[新分類牧野日本植物図鑑　2017:554]

土佐豊永万葉植物園冊子

＊定福寺へお越しになる方の為の整備

（１）定福寺多言語化

定福寺では文化庁から助成金をいただき、中国語・台湾語・韓国語・英語の解説版を設置いたします。

（２）ユニバーサルデザイン化

２０２４年度中に本堂まで車いすで参拝できるようになります。

持仏堂でのご法事も車いすでお越しいただけるようになります

御手洗いは、第二駐車場に多目的トイレがございます。

＊定福寺の文化保存活動

（１）文書のデジタル化、整備事業

定福寺では、定福寺に関わる多くの地区の文化の保存活動を開始いたしました。最初に古文書の整備をいたします。２０２３年度に高知県から古文書整備のために助成金を賜りました。皆様からお預かりいたしました古文書の整備を、特定非営利活動法人地域文化計画のご協力のもと、報告書を発刊し、企画展を開催いたします。来年度からは、定福寺に残る古文書の整備を行う予定です。

（２）文化財の保存活動

各地区で管理が厳しくなった仏さまを定福寺に安置し保存、参拝できる準備を進めています。

（３）建築物調査

定福寺の本堂、持仏堂は「登録有形文化財」の指定を受けています。これらの調査を行う予定です。

（４）仏像調査と修復

定福寺に残る、仏像や神像の調査を行いました。また虫害が発生しております。それらの対処を行います。詳細な報告書が今後発刊されます。

お地蔵さまを調査する定福寺次女　仏師・高田明

節分星供護摩祈祷

定福寺では節分に、星供護摩祈祷を厳修いたしております。法要の最後には豆まき・福木まきを行なっています。お檀家様だけではなくどなたでもご参加いただけます。節分にはご家族そろってお越しいただければと思います。

お申し込みは、定福寺ホームページの申し込みフォームから送信していただくことも可能です。

定福寺旭観音堂

高知市内の定福寺旭観音堂では、ご法事や仏教講座、写経・写仏などが行われています。ご法事の後、各自でお弁当をご持参され召し上がられることも可能です。お気軽にお申し付けくださいませ。

仏教講座、写経&写仏の予定はホームページ上よりご確認くださいませ。

観音堂の写経写仏の様子

定福寺の不動明王さま

定福寺には不動明王さまが5躰いらっしゃいます。1躰は、約162cm(火焔と台座で約250センチ)の立像で本堂脇檀に安置されるお不動さまです。奈良文化財研究所の2023年調査で、1100年代(12世紀)に作られたことが判明いたしました。2躰目は、約50センチの立像のお不動さまです。仏師の方が模彫をされた不動三尊が本堂脇檀に安置されています。3躰目は、約20センチの座像(火焔と台座で約50センチ)の座像のお不動さまです。1712年に仏師清水隆慶が造立し、生駒聖天で有名な宝山寺の僧、湛海が開眼供養をされた不動明王さまも清水隆慶作です。4躰目は、釣井義光師が掘られた長崎の平和祈念像をモデルにした、約50cmの不動明王座像です。そして5躰目が、この度ご縁を賜った成田山新勝寺の御分身とされる不動明王さまです。

その縁起には、「関東守護の御本尊として上総国成田山新勝寺に勧請した。新堀の地(現在の港区芝周辺)に成就院を開基し、明治6年1月6日成田山新勝寺より遷座された」とあります。成田山新勝寺では、江戸時代に市川團十郎の影響もあり成田山のお不動さんが有名になり、出開帳として江戸の町数か所に御分身を安置した記録があるそうです。明治6年の記録もあるようです。それらの仏さまは、空襲の影響などにより現在は全て不明になっているそうです。成田山新勝寺のお不動さまは秘仏で重要文化財です。お参りさせていただける前仏さんは非常に大きなお不動様です。成田山も定福寺と同じ智山派であり、当山にお越しになられたお不動さまのお写真をお見せすると、本当に似てらっしゃるとのお話もいただきました。

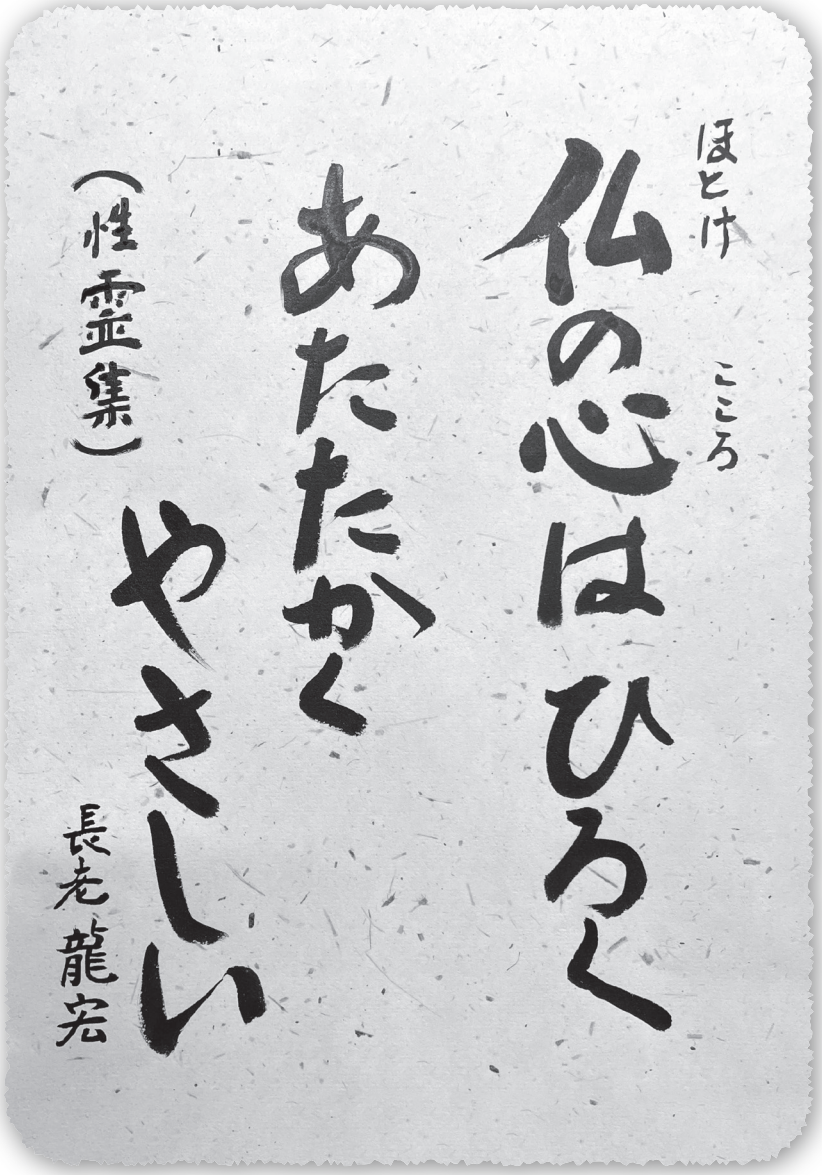
成田山から江戸東京の芝へ、芝から小田原へ、小田原から豊永郷の定福寺にお越しいただけたありがたいお不動さまです。定福寺では毎月28日不動護摩のご祈祷を厳修いたしております。本堂前の祈願木札にお願い事を記入いただければ、毎月28日にご祈祷をさせていただきます。木札に願い事を記入の際にご祈祷させていただいた御紙札をお持ち帰りくださいませ。

成田山新勝寺　不動明王

京都智積院不動堂　不動三尊と明王

住職動向

1月12日　午前：上田建築事務所打合せ
　　午後：高知県歴史文化財課（定福寺視察）
1月18日　午前：写経・写仏会＆仏教講座（旭観音堂）
　　午後：高知県看護協会打合せ
1月21日　大豊町観光ガイド養成講座
　　土佐豊永万葉植物園養成講座
1月23日　クラウドファンディング（オンライン打合せ）
1月25日　竹林寺初文殊会式
1月27日　大豊町副町長への豊永郷民俗資料館現状報告
　　東京からのツアー観光案内
1月29日　写経・写仏会＆仏教講座（旭観音堂）
1月30日　高知城歴史博物館打合せ
2月6日～2月9日
　　第８会三法院流報恩院方一流伝授（参加）
2月12日　写経・写仏会＆仏教講座（旭観音堂）
2月14日　午後：大豊町役場来寺
　　午後：高知城歴史博物館館長来寺
2月16日　写経・写仏会＆仏教講座（定福寺）
2月20日　写経・写仏会＆仏教講座（定福寺）
2月21日　大豊学園研修　来寺
2月26日　写経・写仏会＆仏教講座（旭観音堂）
2月28日　竹林寺打ち合わせ
3月4日　成豊建設打合せ
3月12日～3月15日
　　豊永郷民俗資料館　民具返却作業
3月22日　大豊町役場・株式会社相愛　来寺
3月23日　大豊町役場来寺
3月24日　高知城歴史博物館　評議会
3月29日　大豊町観光開発協会理事会
4月10日　午前：上田建築事務所・設備設計事務所打合せ
　　午後：竹林寺
4月14日～4月15日
　　竹林寺
4月18日～4月20日
　　第九会三法院流報恩院方一流伝授（参加）
4月27日　午前：上田建築事務所打合せ
　　午後：ミュージアムネットワーク理事会
5月11日　午前：NPO法人地域文化計画打合せ
　　午後：高知県歴史文化財課　来寺
5月12日　大豊町観光開発協会理事会
5月16日　日本民具学会来寺
5月19日　大豊町役場来寺
5月24日　大阪大学講演
5月29日　高知城歴史博物館　評議会
5月30日　れいほく広域観光協会　意見交換会
6月1日　日本建築賞　四国地域特別賞授賞式
6月10日　高知新聞取材
6月11日　写経・写仏会＆仏教講座（定福寺）
6月17日　写経・写仏会＆仏教講座（旭観音堂）
6月19日～6月20日
　　国立民族学博物館　来館
6月21日　午前：高知県庁林業振興環境部打合せ
　　午後：高知県庁歴史文化財課打合せ
6月23日　大豊町観光開発協会理事会
6月25日　大原富枝文学館・豊永郷民俗資料館共同企画（松浦佐用彦講演
6月26日　看板打合せ　午後：れいほく観光協議会来寺
6月28日　NPO法人総会
6月29日　和田書房打合せ
6月30日　午前：クラウドファンディング（リモート会議）
　　午後：講堂建設打合せ
7月2日　午前：梶が森山開き　午後：仏像調査
7月3日　午前：写経・写仏会＆仏教講座（旭観音堂）午後：FM高知取材
7月5日　松浦佐用彦忌
7月6日　小林製薬来寺
7月7日　役場面談
7月13日　高知大学打合せ
7月15日　午前：写経・写仏会＆仏教講座（旭観音堂）
　　午後：豊永郷民俗資料館案内
7月16日　柳瀬お堂　大師像搬出作業
7月19日　NHK土佐豊永万葉植物園取材
7月20日　高知県歴史民俗資料館へ調査
7月21日～7月23日
　　豊永郷民俗資料館民具燻蒸作業
7月26日　午前：大豊学園新任教師研修会（定福寺）
　　午後：れいほく観光協議会



7月27日　午前：上田建築事務所打合せ
　　午後：和田書房打合せ
7月28日　高知大学地域協働学部来寺
8月2日　クラウドファンディング打合せ
8月4日　大豊町役場来寺
8月8日　上田建築事務所打合せ
8月11日　国立民族学博物館来寺
8月21日　本堂燻蒸下見
8月31日　ミュージアムネットワーク
9月1日　多言語化打合せリモート会議
9月10日　写経・写仏会＆仏教講座（旭観音堂）
9月27日　真言宗智山派高知教区青年会講習会講師
9月28日　大豊学園来館
9月29日　講堂建設打合せ
10月2日　大豊町地域創生会議
10月4日　高知県看護協会打合せ
10月11日　高知県看護協会講演
10月12日　大学生取材来寺
10月15日　写経・写仏会＆仏教講座（旭観音堂）
10月17日　文化財リモート会議
10月18日　四国銀行打合せ
10月20日　土佐豊永万葉植物園パンフ打合せ
10月23日　リトルラボ打合せ　来寺
11月2日　高知県文化財課来寺
11月17日　高知大学地域協働学部　講師　民俗資料館
11月25日　写経・写仏会＆仏教講座（旭観音堂）
12月11日～古文書調査（旭観音堂）
12月13日　涅槃の家へ打合せ
12月17日　講演会聴講（本山プラチナセンター）

講堂建設志納金の感謝録

定福寺檀家、信徒、縁者の皆様には講堂建設へ多大なる御協力を賜っております。御志納に対しまして深く感謝申し上げますと共に、ここにご報告申し上げます。

一期・二期・三期・四期と分けてご志納のご予定の方もいらっしゃると存じます。どうぞ引き続きご協力をいただきたく、よろしくお願い申し上げます。

金額につきましてはこれまで御志納をいただきました金額の総計を載せさせていただいております。尚、「定福寺だより」作成の都合上、令和五年十二月一日までに御志納いただいた方の御芳名を順不同にて載せさせていただきます。ご了承くださいませ。

現在の講堂志納金の総額は

金　八〇五九万〇五五四円

でございます。

大豊町

沖

一、金　十二万円也
前田　大子様
高木　叡郎様
小松健一郎様
小松　正義様
小松カヅ子様

大畑井

一、金　十二万円也
西村　澄子様

大畑井

一、金　十二万円也
笹岡　修一様
西村　明政様
笹岡　愛子様
三谷勇太郎様
永森　誉様
笹岡　洋子様
三谷　博信様

一、金　八万円也
笹岡マリ子様

一、金　六万円也
永森　高子様

一、金　五万円也
小倉　高春様

一、金　三万円也
西村登美子様
三谷　敏文様
三谷　優子様

一、金　二万円也
西村サヨ子様

久生野

一、金　十二万円
笹岡香代子様
三谷ダイ女様

一、金　六万円也
大田　昌通様

一、金　三万円也
渡辺　栄蔵様
笹岡　寛様

一、金　一万円也
笹岡　信子様
氏原　菊子様

土居番

一、金　十二万円也
大田宏一郎様
三谷　良子様
三谷三治雄様
松尾吉太郎様
藤原　信子様

一、金　九万円也
小松　憲一様

一、金　五万円也
藤原千代美様

野々屋

一、金　三十二万円也
氏原　尋子様

一、金　十二万円也
小笠原啓元様
永森亀太郎様
永森　宗雄様
小笠原良太郎様
重森　好文様

一、金　四万円也
氏原　靖視様

一、金　二万円也
渡辺　昭子様

瀧久長

一、金　十二万円也
三谷　敏子様

蔭

一、金　三万円也
八木　恒子様

一、金　二万円也
吉永　洋子様

柚木

一、金　百万円也
前田幸太郎様

一、金　十五万円也
前田　波穂様

一、金　十二万円也
上地　孝男様
前田　尊博様
平石　正宣様
松田　健一様
三谷　賀彦様
上地　健勇様
前田　品子様
前田　米穂様
前田　勝水様
米香様

三津子野

一、金　十三万円也
豊永　信一様

一、金　十二万円也
西村　茂頼様

一、金　一万円也
三谷　常敏様

怒田

一、金　十四万円也
三谷　秋香様

一、金　十二万円也
小笠原貞雄様
門田　福實様
渡辺　伸子様
森尾　憲一様
朝倉　榮一様
川崎　幸男様
前田　孝雄様
大田　加代様
小笠原武生様

一、金　三万円也
久松　一男様
上村　利子様
久松美知子様
永森　栄一様
森　栄太郎様
渡辺　君様

一、金　二万円也
森尾千恵子様

南大王

一、金　十二万円也
上村　初子様
岡本　弘様
佐竹　弘義様
森本　鈴子様

中内

一、金　十二万円也
渡辺　和子様

高原

一、金　十二万円也
門田　浩人様

一、金　三万円也
門田　墨子様

川井

一、金　十二万円也
小松　浩久様
岩本　政弘様
渡辺　幸男様
藤原　道夫様
三谷　武昭様

一、金　三万円也
渡辺　盛朗様

落合

一、金　十二万円也
笹岡　壽男様
上池　サチ様
門田　将男様
近藤幸紀子様
平石　秋了様
上村　行和様
上村幸子・三谷等代様

一、金　三万円也
笹岡たか子様

大滝

一、金　十二万円也
小松　栄子様
小松　俊久様

大平

一、金　十二万円也
三谷　啓子様
門田　千鶴様
都築　清様

一、金　十万円也
都築　一久様
将子様

一、金　一万円也
都築重太郎様

粟生

一、金　十二万円也
田内美伎子様
小笠原康太様
西村　敬史様
阿波井忠彦様
三谷　忠夫様
小笠原輝美様

一、金　十万円也
小笠原和行様

一、金　一万円也
三谷富二子様

東土居

一、金　百万円也
西谷　侑紀様
小笠原俊一様

一、金　五十万円也
西村　藤子様

一、金　二十万円也
南　博志様

一、金　十二万円也
小笠原信子様
秋山　公生様
松本　秋子様
平石　義信様
こんどうストアー
岡林　真理様
西梅　優一様
小笠原健一様
都築　長生様

一、金　六万円也
小笠原伊豆子様

八畝

一、金　十二万円也
西村　家光様
笹岡　祐介様
小笠原須香子様
信高　春代様
三谷　廣様
西村　時宗様
笹岡　一郎様

西村　尚利様

一、金　六万円也
西村　正尚様

一、金　三万円也
笹岡　利恵様
笹岡　盛政様
西村政次郎様
三谷　裕一様
笹岡　繁男様

立野

一、金　十二万円也
都築　武吉様
西村　秀仁様

一、金　九万円也
田村　主江様

西川

一、金　五十万円也
三谷　雄一様

一、金　十二万円也
三谷松太郎様

一、金　六万円也
岡本　享様

一、金　五万円也
三谷　安一様

一、金　三万円也
山中　米雄様

佐賀山

一、金　十二万円也
渡辺　亀子様
山中　亀菊様
松高　宗男様
山中　国男様
山中　和彦様

小笠原茂夫様
松高　俊二様
西村　正子様
西村　武明様
山中　樹様
西村　光子様

一、金　六万円也
山本　幸雄様

一、金　五万円也
三谷　義文様

西土居

一、金　十二万円也
都築　惠子様
島崎　幸様

三谷

一、金　十二万円也
岡崎　満子様
三谷　英美様
三谷　降晴様
三谷　均様

一、金　六万円也
井岡喜久子様

赤根

一、金　十二万円也
下村　忠義様

一、金　十万円也
小笠原茂樹様

一、金　六万円也
下村　春美様

岩原

一、金　五十万円也
下村　皖徹様

下村多美子様

一、金　二十五万円也
森下　守良様

一、金　二十万円也
下村　信幸様
下村ヤスコ様
下村　直史様

一、金　十五万円也
森下　廣文様

一、金　十三万円也
岡崎　博臣様

一、金　十二万円也
筧　貞子様
下村和鹿子様
藤原　正至様
下村　照子様
三谷　倫子様
小笠原清司様
三谷　米子様
藤原　寿仁様
小笠原利雄様
豊永　稔仁様
小笠原俊久様
森下　秋男様

筏木

一、金　二十七万円也
筧　昌幸様

一、金　十五万円也
小笠原征太郎様

一、金　十二万円也
筧　義孝様
筧　艶子様
筧　桂太郎様
長野　文子様

八川

一、金　十二万円也
小松フキ子様
平石松太郎様
小笠原花美様
豊永　浩一様
畑山　正親様

一、金　九万円也
小笠原和子様

一、金　六万円也
豊永　敦美様

一、金　三万円也
小笠原佐智子様
杉本　信子様

大久保

一、金　三十万円也
都築修一郎様

一、金　十二万円也
都築　昭仁様
北窪　博章様

大砂子

一、金　百万円也
北村　光幸様

一、金　二十万円也
中西　正様

一、金　十二万円也
財木　貞広様
中西　大様
中西　一則様
門田　平様
中西　力様
石川　茂様
豊永　信一様
長瀬　澄男様

吉松　英喜様

一、金　六万円也
小笠原光秋様

一、金　三万円也
門田千仁子様

一、金　一万円也
中西　稲美様

永渕

一、金　十二万円也
上村　光夫様
北村　治仁様
北村　長夫様
北村　治様
北村袈裟雄様
北村　政夫様

一、金　六万円也
北村　利男様

一、金　三万円也
北村　守重様
北村　武子様

桃原

一、金　十二万円也
坂本　国治様
上村　広光様
佐竹　和彦様
上村　好重様
上村　邦仁様

一、金　五万円也
上村　茂清様

一、金　三万円也
上村　良子様
上村　昇一様

連火

一、金　十二万円也
秋田　耕一様
松浦　一雄様
上村　幸夫様

川戸

一、金　十二万円也
西村　享子様
上村美香子様

安野々

一、金　五十万円也
都築　康博様

一、金　十二万円也
都築　富恵様
都築　俊子様
上地　博子様

上東

一、金　十五万円也
小笠原美衛様

一、金　十二万円也
三谷　良一様
三谷　幸夫様
三谷　忠幸様
山中　英榮様

一、金　五万円也
山中清和子様
上池　楠於様
三谷　愛則様

黒石

一、金　十二万円也
三谷　水利様
小笠原　清様
西谷　章博様

庵谷

一、金　十二万円也
吉村冨由子様
永森　遥子様
白石知代子様

一、金　二万円也
西谷　善利様

中屋

一、金　十二万円也
上地美津男様

穴内

一、金　十二万円也
小林　一美様

小川

一、金　五万円也
山口　京子様

川口

一、金　十二万円也
三谷　和秀様
平石　安央様
佐竹　秀逸様

一、金　三万円也
永森　裕治様

一、金　二万円也
藤原　正豊様

杉

一、金　十二万円也
永森八重子様
中西　純様

一、金　九万円也
田中　極子様

一、金　五千円也
入野　耕一様

高須

一、金　十二万円也
小笠原利友様
徳弘　幸盛様

一、金　六万円也
村山志津子様

寺内

一、金　十二万円也
都築　満男様
三谷　和也様

一、金　十万円也
釣井　直子様

一、金　三万円也
久保　慶子様

戸手野

一、金　十二万円也
三谷　豊恵様

中村大王

一、金　十二万円也
上村　誠志様
仲本　健児様

一、金　六万円也
小笠原ヨシ子様

船戸

一、金　十二万円也
山本　富男様

和田目付

一、金　十二万円也
前田　浩二様

高知市

一、金　百万円也
竹林寺住職
海老塚和秀様

一、金　五十二万円也
小松　久保様

一、金　五十万円也
㈲成豊建設
上村　一正様
都築満里子様
土居　瑞様
小笠原悦弘様

一、金　三十万円也
筧　邦彦様
上地　幸男様

一、金　二十二万円也
渡辺　康男様

一、金　二十万円也
北村　真一様
下村　賀基様

一、金　十五万円也
笹岡　廣様
岡崎　園子様

一、金　十二万円也
井上　央様
岡崎　順一様
小笠原郁子様
小笠原育彦様
小笠原喜代子様
小笠原祥一様
小笠原利夫様
小笠原秀郎様
小笠原　正様
小笠原光子様
門田　健夫様
上地　正子様
上村　馥様
上村　積夫様
上村太喜夫様
上村　吉秋様
上村　賀彦様
上村　義久様
北窪　堅一様
北添ひとみ様
小松　一郎様
佐野　茂様
澤田　美紀様
下村　元明様
高橋　節子様
砂田　英伸様
瀧下　靖夫様
田内喜久世様
中西　清彦様
長野　智晴様
永森　美智様
西村　満恵様
信高　幸子様
平石甲子郎様
平石　礼子様
平石　君子様
藤田恵美子様
藤原憲一郎様
藤原　恵様
三谷　加子様
松田　時江様
三谷　孝子様
三谷　直行様

三谷　義兼様
三谷　栄男様
森本　晃行様
山崎　豊様
山中　末子様
山中　展子様
山本　光子様
吉永　倭誠様
吉村　英法様
渡辺　茂信様
渡辺芙佐子様
渡邊　道男様
石本喜久子様
大﨑　一男様
徳増　和男様
弘瀬登美子様
岩村　久様
豊永　正富様
門田　速雄様
笹岡　良男様
上田　直人様
氏原　靖夫様
氏原　芳様
大崎　和様
尾立　靖宣様
佐竹　英敏様
白石　重喜様
都築登喜子様
弘田　允英様
三谷　節夫様
南　賀徳様
三谷　禮子様
上村　正男様
西村　正様
藤原　一男様
三谷　一彦様

三谷　純清様
小笠原敏雄様
畦地美知子様
中川　和博様
松田　修昌様
三村　悦子様
南　正様
佐竹　和子様
松田　邦夫様
上村　国之様
三谷　宏様
森岡　俊幸様
都築　敏郎様
岡村　聡様
西村　重美様

一、金　十万円也

戸田　知恵様
山中　典子様
山本　裕子様
百合子様
川西　敏子様

一、金　九万円也

上村　満尚様

一、金　五万円也

豊永　啓一様
岡﨑　正典様
松岡　末喜様
池内　一之様

一、金　三万円也

飯田　順一様
小笠原侶子様
門田　忠様
北窪　康宏様
小松　英正様
小松猪佐夫様
笹岡袈裟穂様

笹岡　朝吉様
永森　利博様
西村　孝様
信高　顕彦様
松高　治吉様
吉村　広様
井口シズエ様
三谷　直美様
酒井　友子様
鶴原　正一様
永野美榮子様
三谷　哲生様
三谷　虎子様
高野　広茂様
岡本真知子様

一、金　二万円也

上村　敏彦様
和田　樹霖様

一、金　一万円也

小笠原由美子様
三谷　晴澄様
三谷　幸正様
宮﨑　聖也様
上岡　孝夫様
山﨑　匡様

一、金　三千円也

柏井　隆弘様

一、金　一千円也

濵﨑　勝安様

南国市

一、金　二十万円也

三谷　せつ様

一、金　十二万円也

小笠原雪子様
小笠原良一様

金子　糸枝様
門田　利彦様
北村　竝生様
小林　綾子様
佐竹　弘敏様
都築　正子様
豊永　英夫様
西村美津子様
古地　裕和様
前田　和男様
松高　清信様
三谷　政博様
三谷　俊美様
三谷由美子様
村上　三郎様
森本　憲昌様
下村　定様
佐竹　文雄様
永澤　悦穂様
依光　佳景様
大家　福盛様
小林　幹雄様

一、金　十万円也

佐竹　京子様
三谷　富盛様

国分寺住職
林　隆光様

一、金　九万円也

岡崎ヨシ子様
小笠原美智様

一、金　三万円也

岡﨑　太助様
森尾　麻依様
豊永　清香様

一、金　一万円也

田淵　能生様

香南市

一、金　十三万円也

齊藤佐津子様

一、金　十二万円也

小笠原昭寛様
小笠原邦彦様
小笠原幹雄様
北村佐智子様
笹岡　寛之様
下村　令子様
大家　正福様
都築　繁美様
西谷　芳信様
中西　静様

一、金　三万円也

吉田　安成様

香美市

一、金　十二万円也

下村　宏治様
下村　久夫様
竹崎　太一様
豊永　俊勝様
永森　孝宏様
平石　宮子様
藤原　重博様
前田　昌章様
三谷　茂敏様
三谷　武正様
三村　満男様
岡崎　忠生様
都築　満徳様
上村　美恵様

一、金　十万円也

株式会社テラムラ
代表取締役 寺村　勉様

一、金　六万円也

平石喜代富様
森本　歳雄様

一、金　三万円也

西村　盛様
三谷　清夫様

一、金　一万円也

溝渕商店様

室戸市

一、金　十二万円也

岡本雄四郎様

安芸市

一、金　十二万円也

山中　達志様

一、金　一千九七円也

永沢　英季様

土佐市

一、金　十二万円也

小笠原和雄様

須崎市

一、金　十二万円也

山本　芳子様

土佐町

一、金　十二万円也

北村　真一様

一、金　三万円也

三谷千代美様

いの町

一、金　十二万円也
門田　広志様
上村　秀夫様
平石　聡様
三谷　敬晃様
岡本　圭子様

北海道

一、金　十二万円也
森本　敏正様
長谷　真平様

茨城県

一、金　百万円也
関口　智嗣様

東京都

一、金　二十四万円也
上村　公昭様

一、金　十二万円也
前田　嘉俊様
柳村真理子様
平尾　修章様

埼玉県

一、金　十五万円也
新留　貴光様

千葉県

一、金　十二万円也
小笠原博幸様
寺石　健児様
石川　陽一様

神奈川県

一、金　百万円也
西村　真紀様

一、金　十五万円也
三宅　博子様

一、金　十二万円也
上村　智彦様
赤井　智司様
山川　千代様
　　進様

一、金　三万円也
前田　治男様

一、金　一万円也
大西　崇博様

岐阜県

一、金　一万円也
安藤　裕隆様

一、金　三千円也
早坂冨司子様

愛知県

一、金　十二万円也
鈴木　弘美様
藤原　清高様

一、金　六万円也
山中　泉様

一、金　三万円也
谷沢　明様

一、金　一万円也
小笠原陽子様
戸松　政直様
　　照子様

三重県

一、金　十二万円也
西村　文夫様

一、金　六万円也
日浦　種子様

滋賀県

一、金　十二万円也
三谷　浩視様
小笠原昌彦様

奈良県

一、金　一万円也
武藤　恵里様

京都府

一、金　三百万円也
小笠原康夫様

一、金　二百万円也
㈱オープン工業様

一、金　一万円也
稲福　善男様

大阪府

一、金　三十万円也
門田　永治様

一、金　十二万円也
赤川美津代様
岩本　功様
西村　聖一様
林　育子様
藤原　政直様
釣井　丈様
青木　幸様
上　清文様
竹山計恵子様
川部　正司様
　　雅子様
小池　宏和様
小池　良子様
中川　守男様

藤原　忠重様

一、金　十万円也
上村　哲彦様
池田　勝彦様

一、金　六万円也
伊野原富美様
山崎　博三様
門田　義誠様

一、金　五万円也
上村　まき様
田中　球地様

一、金　四万五千円也
林　幹夫様

一、金　三万円也
小松　淳子様
茨木　一彦様

一、金　一万円也
高倉　紘世様
須賀原政幸様

兵庫県

一、金　五十万円也
垣内　雅子様

一、金　十二万円也
岡崎孝之進様
北窪　正典様
三谷　修司様
高田　明様
上地　操一様
白石　昌久様
藤本　功様

一、金　六万円也
大家　浩二様

一、金　三万円也
高橋　豊様
片山　哲夫様

英里様
香川　彩喜様
　　圭明様

宝塚市

一、金　十二万円也
吉永　和夫様

岡山県

一、金　十二万円也
三谷　祐功様
吉岡　和子様

一、金　三万円也
坂本　真樹様
　　里沙様

山口県

一、金　十二万円也
小野　千津様

一、金　五万円也
小野　有様

香川県

一、金　五十万円也
小笠原淳也様

一、金　十二万円也
笹岡健太郎様
小笠原　博様
上村　守様
三谷民主雄様

一、金　一万円也
松本　秀信様
白川　義則様

愛媛県

一、金　十二万円也
笹岡正太郎様
下村　忠広様
豊永　信廣様
西村圭太郎様
石川　雅人様
秋山　節雄様

一、金　五万円也

徳島県

一、金　二十万円也
杉浦　悠太様

一、金　十二万円也
岡本　英子様
笹岡千寿代様
中村　義明様
佐加野朱美様
池尻　常様

一、金　八万円也
武井　秦様

一、金　三万円也
北浦　奈都様
北浦　奈々様
武井　美和様

一、金　一万円也
森　富子様
滝口　晃子様
東　雄三様
西岡　純男様

福岡県

一、金　十二万円也
大原　啓典様

匿名

一、金　三千円也

クラウドファンディングからの御寄付

皆様から多大なご寄進を賜り大変感謝をいたしております。お陰様でできる範囲の準備を進めております。2023年は、クラウドファンディングによるご寄付も行いました。

六十万五百円
大阪府　長谷川将大様

五十万円
神奈川県　森上　和久様

十万円
高知市　楠目　大輔様
埼玉県　砂田　庄平様

三万円
東京都　平尾　修章様
滋賀県　浅岡　昭由様
大阪府　WONG YU YUN様
香美市　橋本　恵様

二万円
愛知県　幸部　吉郎様
岡山県　坂本　真樹様
里沙様

一万五千円
高知市　秋山　和範様

一万一千円
高知市　伊藤　舞様

一万円
大阪府　釣井　丈様
兵庫県　工藤　哲也様
東京都　松本　貴之様
兵庫県　立石　真一様
静岡県　河合　智矢様
山口県　小野　有様
山口県　小野　律様
東京都　中島　哲様
東京都　鈴木　佑香様
兵庫県　香川　桂子様
愛媛県　杉本　伸枝様
高知市　宮本　圭一様
高知市　矢田部達志様
高知市　西山　公香様
埼玉県　島村　文夫様
北海道　下薗　修司様
香南市　田村　咲子様
大阪府　茨木　陽光様
いの町　宮尾　賀子様
静岡県　中野　彩乃様

六千円
愛知県　神納　杏奈様
南国市　濱崎　剛士様

五千円
香南市　吉田　沙織様
高知市　村瀬　佐保様
大阪府　土井　幸様
岡山県　岡　信行様
大阪府　柴田　尚欣様
高知市　岡崎　嘉孝様
知子様
高知市　小松えつこ様
東京都　小森　靖久様
茨城県　西村　莉奈様
愛媛県　鈴木　由美様
東京都　石川　照美様
神奈川県　崎山　やな様
山形県　金田　晶佑様
群馬県　桝山　千秋様
福島県　山口ひろみ様
長野県　吉澤　徹哉様
東京都　浦澤　修様
佳織様
栃木県　山野　達哉様
高知市　山岡　瑞枝様
千葉県　秋葉　晶子様
いの町　西川　多紀様
愛知県　永津　貴大様

三千円
神奈川県　平野　亜喜様
東京都　長谷川瑞絵様

現在、お檀家様の約半数の皆様に、ご寄進の御協力を賜っております。
経済不況、社会状況が不安定な中ではありますが、できる範囲で結構ですので、何卒ご協力のほどをよろしくお願いいたします。

御寄付いただいた方の住所について

今回の御芳名は、現住所で記載をいたしておりますが、出身地区で記載を希望される方は、ご連絡ください。この名簿が木札となり、講堂に残ることになります。

寄進、御奉仕への感謝録

一、金　参百万円　也
施主　高知市　土居　瑞　様
定福寺興隆、感謝御礼

一、金　参拾万円　也
施主　大平　三谷　啓子　様
菩提寺興隆、先祖菩提
講堂 曼荼羅絵図　寄進

一、金　参拾万円　也
施主　枚方市　小池　宏和　様
定福寺興隆
粟生聖天尊さまへの感謝寄進

粟生聖天尊　新調　御衣　御念珠
寄進者御芳名

一、金　参万円　也
落合
四国中央市　門田　香代子　様
岩原
石川　雅人　様
枚方市
岡山県　龍光院　岸本　弘徳　様
海老名市
東土居　小笠原　俊一　様
川戸
岐阜県　株式会社　山紫ハヤカワ　様
桃原
東土居　小笠原　信子　様
上村　秀夫　様
高知市　吉村　広　様
岡山県　柴田　憲明　様
岩原　下村　信幸　様
岩原　岡﨑　博臣　様
枚方市　小池　良子　様
枚方市　小池　宏和　様
海老名市　赤井　千代　様
川戸　西村　享子　様
桃原　上村　秀夫　様

年間の行事（おまつり）の前後や年末年始には、初穂米、果物、お菓子、野菜、山菜、砂糖、生花、シキビ等々が届けられます。ご信心な方々には、行事ごとに、当日のお手伝いをしていただいています。また、責任役員様をはじめ、各地区世話人様、節分世話人様、詠歌会の皆様には多大なご尽力をいただいております。

ここに、先祖菩提、仏法興隆の為、謹んで御礼申し上げます。

永代日牌供養・永代納骨供養
新奉加御芳名

永代日牌供養とは、当山持仏堂（弘法大師、興教大師御宝前）にお位牌を安置し、毎朝仏飯とお茶をお供えして読経回向し、春彼岸の入りには年回忌を迎える仏さまの卒塔婆を建て、年回忌ごとに先祖代々の場合は5年ごとにご案内しご供養を申し上げます。五十回忌の後もお位牌は末代安置され、ご供養をしてまいります。

永代納骨は、境内の万霊供養塔にお骨を納めて永代供養を申し上げます。

永代日牌供養

一、施主　岩原　下村　堯基　様
妻　多美子　㐂　菩提也
一、施主　神奈川県　前田　治男様
柚木オカタ
前田家先祖代々　菩提也
一、施主　和歌山市　北嶋　朋子　様
高知市　久保　和子　様
八畝　笹岡　信子　様
赤根シダレカシノウエ
下村家先祖代々　菩提也
一、施主　南国市　森本　道久　様
父　憲昌　㐂　菩提也
一、施主　高知市　三谷　五男　様
兄　賀男　㐂　菩提也

永代納骨供養

一、施主　高知市　三谷　浩明　様
父　伸明　㐂　菩提也
一、施主　神奈川県　前田　治男　様
柚木オカタ
前田家先祖代々　菩提也
一、施主　高知市　上岡　孝夫　様
元南大王
佐野家先祖代々　菩提也

一、施主　和歌山市　小林　幸雄　様
　　元大滝
　　小林家三霊位　菩提也

祠堂料志納御芳名

祠堂料とは、亡き仏さまへの報恩謝徳と菩提寺の興隆を念じて奉納される浄財です。その御芳志の高徳にお応えして、菩提寺より亡き仏さまに、院居士・院大姉・居士・大姉の法名が届けられます。

逆修とは、生前に、亡くなった後の菩提を願って法名を受けることをいいます。

一、施主　東京都　氏原　一郎　様
　　父　靖夫　一　菩提也
一、施主　京都市　小笠原　康夫　様
　　御本人　逆修
　　妻　純代様　逆修

土居（旧姓：都築）瑞　先生のこと

写真は、東豊永小学校勤務の頃

三年前の定福寺だよりにて、書道作品を寄贈いただいたことをご紹介させていただきました。

土居先生は今年満九十六歳になられます。今も現役で障害者福祉に尽力されています。

定福寺とのご縁は、昭和三十年代初めに東豊永小学校に四年間赴任されその間、定福寺に下宿されていたことからはじまります。

先生の息子さんは高熱により一歳で知的障害を負いました。先生は公立小学校、養護学校で勤められ、その後私財をなげうって、高知県内初となった知的障害者通所施設を開設され、運営にあたっておいでます。

令和四年に出版された自分史からの抜粋で先生をご紹介します。

『私は公務員として教育に携わってきましたから、我が子を自分の施設に入れて特別扱いすることができませんでした。我が子は他の施設で見てもらい、人さまにお世話になる、その代わり他の子のお世話をさせてもらおう、その思いは一貫して変わりません。「我が子を通して人の子を、人の子を通して我が子を」ということがいつも頭にありました。』

『「どんな子でも障害のある子は特別に安心して住める場所を、親が亡くなった後暮らせる終の住み家を作りたい」願いは我が子ばかりではなく、私立であれ、公立であれ、すべての子に届かなくてはいけないと思い続けています。』

『……東豊永小学校に転勤しました。大豊はたいへん寒くて、小学校では教室の真ん中に薪ストーブがありました。当番の子供たちは、和紙の材料になる、楮やミツマタの皮を剥いだあとに真っ白い肌となった「かじがら」を背中に担いできます。それを焚きつけにして火を起こし、薪をいれて大きな炎で暖をとります。家庭訪問の懐かしい思い出もあります……（続きはぜひ御本でお読みください）』

『母の想いは果てしなく　子らのそばにより添うて』

土居瑞　著　二〇二二年　飛鳥出版室

土居瑞　先生
　社会福祉法人　ねはんの会　名誉理事長
先生の益々のご活躍、ご長寿をお祈りいたします。有り難うございます。　合掌

永続米（護持会費）の納入についてのお願い（令和６年分）

お檀家の皆様には、年に一度、年回忌法要のあるなしに係わらず平等に、永続米（護持会費）を納入いただいております。皆様より平等に集められる永続米は、総本山智積院・智山派高知教区への負担金及び、定福寺の建物や境内の維持管理、広報通信費などに使用させていただいております。東西豊永地区にお住まいの皆様には世話人・地区総代様にお世話になり、地区ごとに納入いただいています。東西豊永以外にお住まいのお檀家の方、また新しくお檀家になられた方には、お手数をおかけしますが、お届けしております振替用紙にてお納めくださいます様お願いいたします。

金 1,500 円以上也

１月末までにお納めください

郵便口座　口座記号　０１６２０－７
口座番号　１２４２６
加入者名　宗教法人　粟生山　定福寺

連絡先をお伝えください

豊永郷では、人口減少が進んでいます。多くのことは、各地区や近所の方々によって問題解決されますが、緊急事態の時に頼りの方が外出されていたり、遠方の子供や孫に連絡を為なければならない時があるかもしれません。実際に近年、そのようなことが何件かありました。そのような時のために、お子様や親戚の方などの連絡先をお寺にお伝えいただいておけば、お寺の住所録に記載し、お寺から連絡をとることができます。連絡をする際は、お寺から直接いたします。別の方に連絡先だけをお伝えすることはありません。

2024年
令和６年度年回表

一周忌	令和５年
三回忌	令和４年
七回忌	平成30年
十三回忌	平成24年
十七回忌	平成20年
二十五回忌	平成12年
三十三回忌	平成４年
五十回忌	昭和50年
百回忌	大正14年
以下50年目ごと	
仏誕	2590年

定福寺持仏堂・旭観音堂でのご法事について

定福寺持仏堂や、旭観音堂でご法事を希望される方は、自宅でご法事をしてさし上げる用意に準じて、お供え物などのご持参をお願いします。

○お位牌
○線香、ロウソク二本
（大きめのものがありがたいです）
○生花、樒（花入れは一対準備しています）
○果物、お菓子（故人がお好きだったものなど）
御霊供膳（仏さまへのお膳）はお寺で準備いたします。

お集まりになる方が大人数となる場合はお知らせください。

粟生山歓喜院 定福寺チャンネル

お彼岸や土砂加持法要、お盆のご案内の際にお伝えいたしましたように、定福寺では、ユーチューブチャンネルを開設いたしております。

法要の様子や豊永郷の様子をご覧いただけます。

是非ご覧くださいませ。

YouTube　ホームページ

定福寺の諸仏像（県指定12体 ○印）・堂宇

定福寺本堂

- ○ 阿弥陀如来像（本尊）
- ○ 薬師如来像（脇士）
- ○ 地蔵菩薩像（脇士）
- ○ 不動明王像
- ○ 毘沙門天像
- 十一面観音像（定福寺奥ノ院）
- 不動明王像
- 矜羯羅童子像
- 制吒迦童子像
- 歓喜天像
- 大黒天像
- 妙見菩薩像

宝物殿

- ○ 六地蔵（笑い地蔵）

- ○ 聖徳太子立像
- 不動明王座像
- 弘法大師座像（御影堂）
- 毘沙門天
- チベット砂曼荼羅・仏具
- 諸菩薩
- 神像

持仏堂（大師堂）

- 弘法大師座像
- 行基菩薩座像
- 興教大師座像

国登録有形文化財

本堂、持仏堂（大師堂）

境　内

- 弘法大師修行像
- 十三仏像・七福神像
- 観音像
- 四国88ケ所お砂踏
- 仁王門
- 薬師堂
- 水神
- 熊野神社

定福寺開創	1301年前
本尊造立	872年前
本堂再建	244年前

令和６年　当山年中行事

行　　事	日　　時
修正会　大護摩祈祷　大般若経転読	1月1・2・3日 午前9時より
七福神まつり	1月7日
節分会（厄はね歳とり）大護摩祈祷	2月3日　10時
檀信徒年回忌先祖総供養（彼岸中日）	3月20日
土砂加持法要（先祖菩提総供養）	4月1日　14時
加持ヶ峰奥ノ院大師縁日　大護摩祈祷（旧暦3月21日）	4月29日
花まつり（大念珠まわし・百足除札授与・甘茶接待）	5月15日（旧暦4月8日）
蓮まつり（万霊供養）　土佐豊永万葉植物園保存会主催	7月初旬～8月中旬
諸病きゅうり封じ祈祷　土用の丑	7月24日　9時
お盆総供養（迎え火）	8月13日　9時
施餓鬼供養（千体地蔵流し・送り火）　東土居川原	8月16日　16時
もみじまつり	11月初旬～12月初旬
粟生聖天結願祭（開運福寿）	11月16日　9時～13時
除夜の鐘	12月31日　17時～
粟生聖天ご縁日	毎月　1日・16日
詠歌会	毎月　2回
写経会と仏教講座	毎月　2回

御法事を営まれる際はなるべく早目にお申し込みくださいますようお願いします。
（友引は葬儀、法事は執り行いません）お塔婆は1本二千円です。

発　行　所

真言宗智山派
宗教法人　粟生山　定　福　寺
〒789-0167　高知県長岡郡大豊町粟生
☎ 0887（74）0301㈹　　FAX 0887（74）0302
HP：jofukuji-kochi.jp

郵便口座　口座記号　01620－7　口座番号　12426
加入者名　宗教法人　粟生山　定福寺

令和六年　甲辰閏

住職　釣井龍秀
長老　釣井龍宏
法類総代　竹林寺住職
責任役員　海老塚和秀
責任役員　下村堯基
責任役員　小笠原俊一
地区護持会　代表会
遍照講詠歌会講員　一同

土佐豊永万葉植物園に咲く花（十八）

ぬばたま（ひおうぎ）

アヤメ科（草本類）
多年草　花期は７月～８月
オレンジ色に赤の斑点の六花弁をつける。夕方にはしぼむ一日花。

写真：岡田憲佳

ヒオウギは山野の草地や海岸に自生する多年草です。高さは60～１２０センチ程度。葉が長く扇状に広がり、宮廷人が持つ檜扇に似ていることから命名されたとされます。種子が特徴的で４ミリほどで黒色。艶があり美しい種です。この漆黒の種は「夜」の枕詞に充てられました。本州・四国・九州に分布します。京都の祇園祭や大阪の天神祭では、縁起物の花として、床の間や軒先に飾られているようです。

定福寺の境内各所で、ヒオウギを観ることができます。仁王門の近くによく咲きます。旭観音堂にも苗を植えましたが立派に成長して花を咲かせましたので、比較的育てやすい植物です。

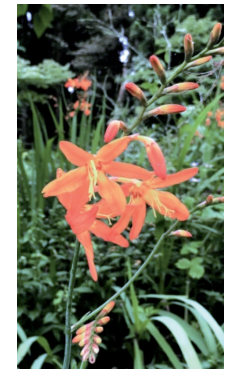
さて、ヒオウギに似た名前で「ヒメヒオウギズイセン」があります。（ヒメの付かないヒオウギズイセンもあります。よく見かけるのはヒメヒオウギズイセンです）このヒメヒオウギズイセンは明治時代の中ごろ日本に入ってきました。南アフリカ原産で耐寒性があり、繁殖力があって全世界で野生化しているようです。佐賀県では移入規制種の指定を受けており、栽培が条例で禁止されています。定福寺境内にもヒメヒオウギズイセンを見かけますが除けるようにしています。花は濃いオレンジ色です。万葉集にあるヒオウギの花には斑点があり、ヒメヒオウギズイセンよりはオレンジが薄いので区別は容易です。

黒玉（ぬばたま）の夜さり来れば巻向（まきむく）の川音高（かはと）しも嵐かも疾（と）き

柿本人麻呂（万葉集巻七　一一〇一）

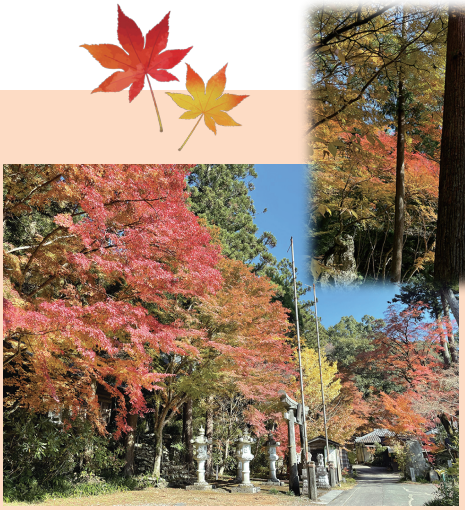
歌意：暗闇の夜が訪れて来ると、巻向川（現奈良県桜井市）の川音が高く聞こえます。山の嵐が激しく吹きおろしているのでしょうか。

闇夜の中で高まってくる川音を山嵐によるものととらえた歌です。万葉集の中で「ヌバタマ」の歌は八十首を数えますが、黒い種子ばかり詠まれています。「ぬばたまの」は「夜」の枕詞。「ヒオウギ」の光沢のある種子が長く残り、黒色であるのをうばたま（烏羽玉）、ぬばたま（射干玉）といい、夜の枕詞となっています。



ヒメヒオウギズイセン（花）
洋花で日本全国に野生化

ぬばたま（ひおうぎ）の種子



[撮影日時]
2023年11月23日
午後３時

境内紅葉のご案内

昨年の紅葉の見頃は11月下旬となりました。本堂前の300年生の背の高い紅葉は中旬には紅葉しますが、境内全体としては遅れて色付きました。西陽の当たる時間も楽しめます。今年の秋にもぜひ紅葉狩りにご参拝くださいませ。